

京都に行くなら、
おけいはん。



西花見小路（祇園四条駅下車）
楠葉けい子（大学生）

またひとつ、
祇園を知りました。



京阪電車お客さまセンター ☎06-6945-4560 ※お掛け間違えのないようにお願いします。

〔平日〕9時～19時

〔土休日〕9時～17時

※12月30日～翌年1月3日は休業

おけいはん、
京阪の
人。

www.okeihan.net

月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島

Vol.48 2012 7/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)



ナカノシマ大学

8月講座は2本立て!

「大阪弁の不思議」

&

「古地図で読み解く
大阪の歴史」

申し込み受付中!

「旧町名」を
たどる。

信保町



「旧町名」をたどる。

昭和37年（1962）に施行された「住居表示に関する法律」により、大阪市内でも昭和40年から大規模な町名変更が行われた。

住所表示の合理化を目指してのものだったが、その陰に隠れてひっそりと地図から消えた町名も多くある。この「旧町名」を調べてみると、なかなか面白い。町の歴史に深く関わっていて、知らない物語が詰まっているのだ。

取材・文 江口由夏 大迫力（本誌）

特集参考文献／『大阪の町名』大阪三郷から東西南北四区へ』（大阪町名研究会編・清文堂・1977）

『大阪の町名 その歴史 上・下』（大阪市民局編・大阪市民局・1992）

「町名になった人々。」

その名を轟かせた豪商。

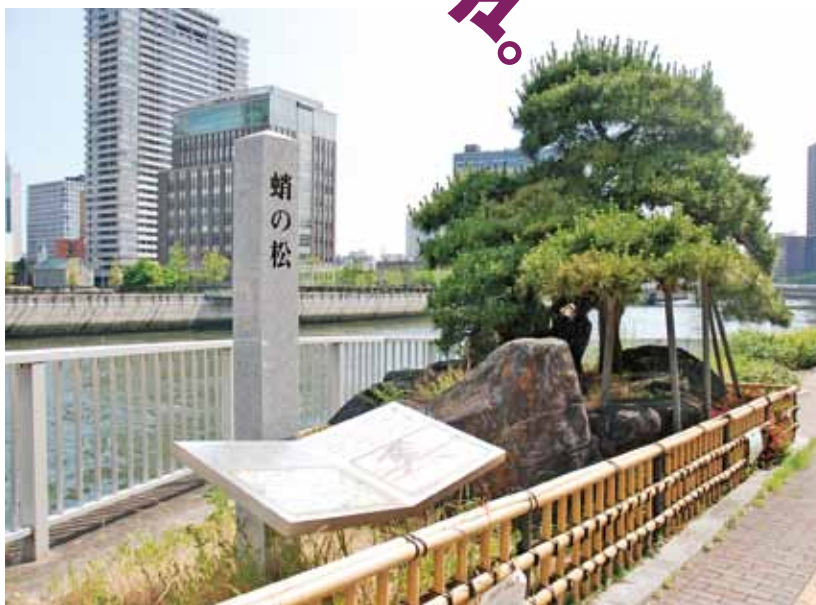
江戸に幕府が開かれて間もない元和5年（1619）、大坂の豪商・淀屋常安が中之島の開発に着手した。

彼が商いのネタとして目をつけたのは材木。この一帯には、春は雪溶け水、秋は台風による出水により材木がおびただしく流れ着く。常安はその材木を拾い集めて売りさばくことによつて、材木商人として名をはせていったのだった。そして大坂城落城後は、川を使った水運に目を付け、自ら中之島の開発を申し出て開拓に心血を注ぐ。大坂の陣に際しては、徳川方に与したねざらいとして苗字帯刀を許されるという名誉も得た。

しかし、後の堂島米市場へつながる流れを生み出した2代目の言當以降、代々着実に富を蓄えていたことが5代目・辰五郎に災いする。宝永2年（1705）、巨万の富と贅沢な暮らしぶりが幕府に咎められ、財産は没収。淀屋一族は追放処分を受けてしまった。

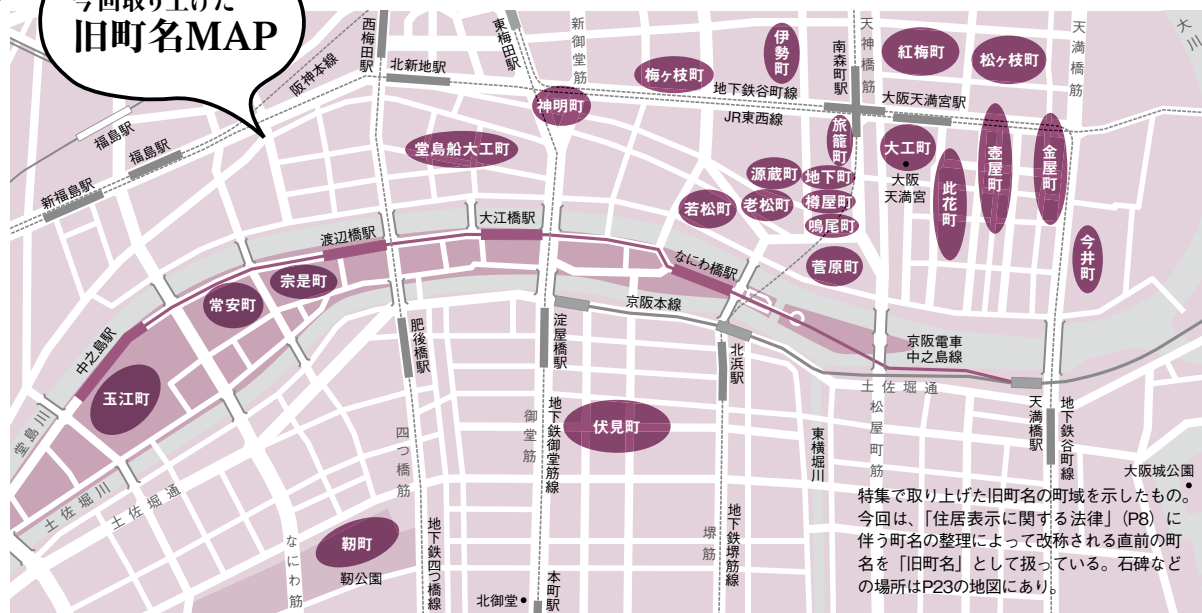


上／青銅製の「淀屋の碑」は淀屋橋南詰付近にある。米俵が盛んにやり取りされる様子などが描かれている。右／土佐堀川にかかっている常安橋。



旧常安町にあった、広がった枝と張った根が蛸のようだとされた名松「蛸の松」は、田養橋北詰に再現されている。

今回取り上げた 旧町名MAP



特集で取り上げた旧町名の町域を示したものの。今回は、「住居表示に関する法律」(P8)に伴う町名の整理によって改称される直前の町名を「旧町名」として扱っている。石碑などの場所はP23の地図にあり。

治めていた人が町名になる。

現在の中之島4丁目あたりにあった**常安町**は、常安の功績を讃えてのもの。その町名もなくなってしまうが、土佐堀川にかかる常安橋や淀屋橋はまだ健在である。

このように、その地を拓き、または治めた人物を称えて町名となったケースは多い。常安町に隣接していた**宗是町**も江戸時代の早川宗是なる人物にちなむ。宗是は、住友家に次ぐほどの財力を誇った両替商・千種屋平瀬の親戚とされ、かつてはここに因幡鳥取藩の蔵屋敷が占めていたことから、鳥取藩蔵元(蔵屋敷の運営に関わる商人)でもあったと考えられている。

また、天満の大川寄りにあった**今井町**や**金屋町**はどちらも、大坂三郷のひとつ天満組を司っていた惣年寄の名前。惣年寄は町奉行から町役人の監視などを任されており、町名にも名が取り入れられたのだ。

老松通近くにあった**源蔵町**も、源蔵なる人物が江戸初期に実在したと言われている。当時は土地所有者の名をとって「〇〇屋敷」と名付けて地名とする例が多く、この場所も「源蔵屋敷」で通っていた。有力者と言えど住んでいただけで名前が町に残るとは、彼らも鼻が高いに違いない。



金屋町は有力者の屋敷があったとされる筋。その町域は他の町と比べ特に広がった。



宗是町にあった旧ダイビルは改装され、新ビルの建設が進む。常安亡き後も中之島の開発は続く。



「旧町名」現存度
★★★今もある、もしくは橋などに色濃く残っている。
★★石碑などで痕跡をたどることができる。
★特に手がかりを示すものがない。
(月刊島民プレス調へ)

常安町
現存度★★★
現在の中之島4丁目。江戸時代の豪商・淀屋常安に由来する。福島正則が植えた見事な「菊の松」が名所としてもてはやされた。

宗是町
現存度★
今の中之島ダイビルが建っている中之島3丁目にあたる。かつての旧ダイビルには「宗是」という名のそば屋もあった。

今井町
現存度★
天満1丁目にあたり、春は造幣局の桜の通り抜けに訪れる人々ににぎわう。

金屋町
現存度★
現在の天満2丁目。中小企業のビルが、たくさん建ち並んでいる。

源蔵町
現存度★
西天満3丁目にあたる。江戸初期に、土地所有者として源蔵という名の人物が住んでいたと考えられている。



大阪天満宮北側の大工門からのぞいた旧大工町のあたり。右手に見えるのは天満天神繁昌亭。

町名とともに姿を消した樽屋橋だが、親柱は阪神高速守口線の高架下、南森町出入口のやや南にぼつんと残されている。



二、商い人が集った証。

「壺屋町」＝酒壺を売る店？

そこに住む商人の生業と旧町名の由来が直結していたケースもある。天満にあった**樽屋町**では、酒樽や醤油樽の材料である材木を扱う商人たちが古くから店を構えていたし、同じく天満の**旅籠町**には文字通り旅籠（宿屋）が立ち並んでいた。大坂町奉行所へ出頭せよと命じられた上方の人々や、諸国商人の多くが、体を休ませるための宿だった。

今は大阪天満宮が鎮座する場所にあった**大工町**も、江戸の初頭に大工集団の群居が認められる。また**堂島船大工町**は、船大工たちが船小屋を構えていた地だ。北新地へよく行く人なら「船大工通」の名は今も通じる。電柱に残る表示の紫色は、北新地の雰囲気に合わせてののだろうか。

では天満にあった**壺屋町**はどうか。酒壺でも売る店があったのかと連想するが、ここでは旧町名よりさらに古い、旧々町名がものを言う。壺屋町は明治初期に高島町と壺屋町の2つの町が合わさって生まれた町だが、さらにさかのぼって掘り起こすと帯屋町、茶染町という町名が現れる。このことから一帯はもとと繊維の町であり、染色用の壺が多くあったためについた町名だとは考えられないだろうか。

移り住む商人たちの跡。

集った商人たちの出身地によるものもある。今も船場に残る**伏見町**は、京都・伏見から大坂に移住した町人たちによる。江戸期の伏見町一帯は魚、唐物、呉服を扱う商人が多くいて、それぞれに呉服町などふさわしい名があったが、伏見町に統一されたのはやはり町を開発した功績が大きいのか。

少しひねったところでは天満の**鳴尾町**。天正年間（1573年頃）に魚問屋の集落があり、活きのいい魚が尾を動かしてび



静かな旧壺屋町の筋。かつては繊維業を営む商家がずらりと立ち並んでいたのだろうか。



北新地では通り1本1本に、このような紫の表示を見つけることができた。貴重な旧町名跡地である。

樽屋町

現存度★
今は天神西町の一部。酒樽や醤油樽を作るための材木商人が多かったことにちなむ。橋名にもなり、川は埋め立てられてしまったが、橋柱は現存。

旅籠町

現存度★
南森町1丁目にあたる。町人が利用するための旅籠が立ち並んでいたことが由来する。

大工町

現存度★
現在は天神橋2丁目。江戸前期に大工が群居していたが、町域の3分の1は大阪天満宮の境内が占めていることから、おそらく宮大工かと思われる。天満宮ゆかりの土産物屋をよく見かける。

堂島船大工町

現存度★
今は堂島1丁目となっている。船大工たちがかまえた船小屋のかわりに、現在は飲食店が立ち並んでおり、堂島船大工通りとして名が残っている。

壺屋町

現存度★
東天満の1丁目と2丁目にまたがっていた。現在は滝川公園に密接する住宅街となっている。

伏見町

現存度★★★
現在も中央区に残る町名。京都伏見から大坂に移住して商いを始めた伏見商人らにちなんでいる。

西天満 6丁目には「梅ヶ枝町」の名残ただようビルや店、マンションなどが今もまだまだあった。



風流な旧町名。

大阪天満宮の宮まわりは今でこそ「天神橋」「天満」に統一されているものの、かつては筋ごと、通りごとにいくつもの多彩な旧町名が存在していた。たどってみると、さすがは天神さんが鎮座する土地らしく、現存する**菅原町**に代表される菅原道真にまつわる旧町名が少なくない。

例えば、菅原道真と言えは梅の花。「東風吹かば匂ひおこせよ 梅の花 主なしとて 春を忘るな」とは、梅を愛した道真公が太宰府へ左遷される前に詠んだ句である。それに由来するのは、西天満の**梅ヶ枝町**。天満宮裏門筋にあたるこの町には、道真が霊松の梢に明星として現れ、その姿が水面に映って輝いていたという明星池があったとされる。



大阪天満宮の表門（大門）。長い歴史を誇る神社とあって、境内やその周辺は「旧町名」の宝庫。

三、天神さんのおわす町。



こんなところにも旧町名が！ 天神橋1丁目の三叉路になった歩道橋にて。

ちびちと鳴る様子から名付けられたそうだが、なんとも活気が伝わってくる粋な町名である。

また、靱公園にその名が残る**靱町**も、かつては魚市の商人たちが集っていた。と言っても魚のウツボが由来ではない。その昔、豊臣秀吉が大坂市中を巡察していた際に、ちょうどこの町に差しかったところ、塩干し魚を売る商人の「何十文やすやす」という売り文句を耳にする。そこで秀吉が「やす」とは矢果、つまり靱（矢を入れておく筒のことだろう）と言ったらしい。それを聞いた商人たちが命令と受け止め、以後こう呼ばれるようになったそうだ。まさか太閤さんの一言がきっかけだったとは、なんとも思いがけない。

靱公園の西園にある交番前の「靱海産物市場跡」。このあたりでは塩干し魚や、肥料としての干鰯が盛んに売られていたそう。



梅ヶ枝町
現存度★
西天満6丁目にあたる。菅原道真が愛した梅にちなむ。明治33年（1900）に誕生した名前なので、江戸時代から続く町名も多いこのあたりでは比較的新しい旧町名といえる。

菅原町
現存度★★★
西天満 大阪天満宮の南に位置する。由来は菅原道真の名。銅吹葉の吹子屋が多くあったので吹子屋町と呼ばれる東西の道路があった。

靱町
現存度★★
現在は靱本町一帯を指す。豊臣秀吉にまつわる故事に由来。今でも「つば」と名のつく店が自立的。

鳴尾町
現存度★
現在は天神西町の一部となっている。堺筋と天神橋筋に挟まれ、特に車の往來が激しい。



住むならめでたい方がよい？
松といえば、めでたきものの象徴。町の名付けにおいても多く用いられている。現在は古美術店街として知られる**老松町**も旧町名。老松とは、この地に永くあった松の木のこと、新羅征伐へ向かった神功皇后が九州からの帰り道、



大阪天満宮境内の老松神社。その由来を紹介する木札には、老松にまつわる神功皇后の伝承が記されている。

四、あやかりたい、あやかりたい。



大阪天満宮表門から少し東に進んだ「此花町」は、川端康成が誕生した場所だった。

同じ梅でも、川端康成が生まれた町でもある**此花町**は、4世紀末に百済から日本へ漢字や儒教を伝えた渡来人、王仁が詠んだ歌から。「難波津に 咲くやこの花 冬ごもり 今は春べと 咲くやこの花」という古歌に登場する花とは、おそらく梅だ。ちなみに、梅に関する旧町名の中で残ったのは**紅梅町**のみ。大阪天満宮境内には老松社紅梅殿があるのだが、その殿名を伝えるために残されたのか。この町は安政年間（1854年頃）より、天満宮の門前町のような役割を見せ、公許の遊所として賑わいを見せていた。

古くから天神さんに仕える町。

そして大阪天満宮といえ、やはり天神祭。立派な神輿が登場する大規模な祭りだが、そのうち天神さんが座する風神輿に奉仕する町々がある。「菅南連合」、町名が改正される以前の名を「菅南連合八町会」。菅南とは、大阪天満宮の南に位置するという意だろうか。この八町会の中の**地下町**は、まさに神様とその担ぎ手の関係から来た名前なのである。「地下」はもともとと殿上人に対する官人の呼び名であり、ここでは天神さん（てんじんさん）と捉えており、天満宮と町の人の関係性が読み取れる。



大阪天満宮の境内西南の隅にひっそりとある、老松社紅梅殿の立て札。

此花町
現存度★
天神橋1丁目から2丁目にかけての筋である。百済から漢字を伝えた渡来人・王仁の歌にある「咲くやこの花」という語が由来。

紅梅町
現存度★
現存する町名。天満宮の北に位置し、町名も菅原道真が愛した梅にちなむ江戸時代の賑わいとはうってかわり、現在は静かな町である。

地下町
現存度★
現在は天神西町の部。大阪天満宮を「殿上」として、天満宮に古来より仕え続けた関係を「地下」と呼んだことに由来する。今は、天神祭の際に奉仕する民衆が立ち並ぶ。

玉江橋南詰。かつて諸藩の蔵屋敷があったこの一帯には薬師堂があり、祭りの際には賑わいを見せた。



西天満公園のすぐ向かいに見つけたマンション。ご利益のありそうな(?)ネーミング。



堂島川を挟んだ大阪市中央公会堂の向かいには、今も「若松の浜」と呼ばれる船着場がある。

この松の下に船を停泊させて嵐をやり過ごしたという。その後、貞観2年(860)には神社が建てられ、枝葉を伐採しようとする者は罰せられるため石垣で囲われていたが、幕末には火事で燃えてしまったそうだ。

これに関連して面白いのが、老松町のすぐ南にあった川沿いの**若松町**。どんな由来が飛び出すかと思いきや、いわれの深い老松町と対になるように「若松」と付けられたらしい。

今も残る町名だが、臥竜のごとく、つまり横たわった竜と例えられた巨松があったのは**松ヶ枝町**。樹齢数百年の火除けの霊松と称えられ、大正9年(1920)の枯死に伴って、祠や碑も建てられた。松ヶ枝町2丁目の松乃木神社はその霊松を祀る、現在に残る神社である。

縁起をかついだ昔の人々。

中之島5丁目あたりの**玉江町**も、縁起の良い故事に基づいて名付けられた。6世紀前半の欽明天皇が治めた時代、堀江と呼ばれていたこの一帯で美しい玉が発見された。そのめでたい故事からちなんだ先に「玉江」の名を冠したのが、今も変わらず堂島川に架かる玉江橋。玉江町はこの橋にならったもの。それほど縁起の良い名だったのだろう。

西天満と曾根崎新地の境にあった**神明町**のように、わかりやすくめでたいものもある。弘仁12年(821)、嵯峨天皇の皇子である源融が、伊勢神宮の分霊社として孤島に天照大神を祀る神明社を建てた。それ以降、島は「神明の鼻」と呼ばれた。

町名はこの古い伝承からなのだが、生まれたのは昭和年間とずいぶん新しい。一方、同じ西天満界隈でも**伊勢町**の歴史は古く、明暦3年(1657)の「新坂大坂之図」では「いせ丁」の文字が確認できる。言うまでもなく伊勢町とは伊勢神宮からとった町名である。



旧神明町の由来となった「夕日の神明」は大阪三神明の一つとされる。お初天神の少し南側。

民家と民家に挟まれた小さな松乃木神社。現在の社は、住民の手によって昭和25年(1950)に再建されたもの。



老松町

現存度★
今の西天満3丁目から4丁目にあたる。古美術の街として、現在はエリア名としてすっかり浸透した珍しい旧町名である。

若松町

現存度★
今の西天満1丁目あたり。付近の川べりはかつて「若松の浜」と呼ばれ、現在は船着場と遊歩道が整備されている。

松ヶ枝町

現存度★
現在も大阪天満宮の北東に位置する町である。2丁目には扇町総合高校がある。

玉江町

現存度★
中之島5丁目から6丁目。6世紀前半、美しい玉が発見されたことから橋の名になり、町の名にも引き継がれた。常安町の「蛸の松」と対の「鶴の松」があった。

神明町

現存度★
現在では西天満4丁目となっている。神明社と呼ばれる伊勢神宮の分霊社が由来であり、「夕日の神明」と呼ばれていた。

伊勢町

現存度★
今は西天満5丁目の部を担っている。神明町と同じく、神明社という伊勢神宮の分霊社があったことにも。現在は、マンションが多い閑静な住宅街である。

「町名変更」の変遷。

大阪市における町名変更の歴史は、大ざっぱに言うとなかなかな流れになる。まずは明治維新後の近代的な住所表示に整理される過程において。次いで大正期から昭和前期にかけて、人口増や市域の拡張のために変更や新町名の誕生が各地で見られる。そして、太平洋戦争後の戦災復興からまち地区画整理事業に伴うもの。さらに最も新しく大規模なものが、昭和37年（1962）に公布施行された「住居表示に関する法律」による変更だ。

大阪市では阿倍野区を皮切りに、昭和40年（1965）からこの制度に基づく改正が始まった。旧大坂三郷現在の北区・中央区周辺にあたる地域では、明治維新からそれほど大規模な変更はなかったのだが、「住居表示に関する法律」により、大阪市内の町名は大きく減ることとなった。

歴史のエキスパートが集結。

この時は日本全国で町名変更があり、東京などでも旧町名保存を唱える議論が巻き起こった。大阪では、まさに町名変更事業が進む昭和52年（1977）、「大阪の町名―大阪三郷から東西南北四区へ―」なる大著が著されている。東西南北の4区（当時）の町名の由来を一つ一つ丁寧に記録。著者である大阪町名研究会のメンバーを見れば、宮本又次、作

道洋太郎ら大阪の歴史研究のプロフェッショナルばかり。町名が改称されるのに際し、「本書の調査はそのためにもなんらかの参照になることを考えてのものである」と書かれており、後世に語り継がれることを願って編まれた労作である。

情緒をとるか、便利さをとるか。

由来と共に大阪の町名の特徴に関する考察もあり、非常に読み応えがあるのだが、特に

「町名」は文化遺産か。

文／大迫力（本誌）

面白いのは旧い町名は保存されるべきかどうかについての議論だ。「地名は文化遺産であるといわれ、いわば無形の文化財として、大切に保存すべきものだとの説も出ている」とし、井原西鶴や近松門左衛門の作品を読むにも旧町名でなければ実感がでないと続ける。だが一方で、郵便事業はもちろんのこと救急車やパトカーや消防車が早く目的地に着けるようになるなど、新しい住居表示がもたらす利便性も捨てがたい。「簡便さ、便宜さをと

るか、由緒をとり、情緒をとるかの問題である」という迷いは移行期ならではのものだ。

住民の声を聞くと言っても歴史に対する意識はまちまちだし、大阪は進取の気象が強く古いものへの愛着が少なくないところがあることにも理解を示す。それでも単に合理性だけでは割り切れない微妙な心情が語られているところに、とてもリベラルかつ真摯な態度が感じられる。

「本町まがり」「夢の浮き橋」…。

ところで、同書では正式な町名ではない通称・俗称の地名についても言及されている。例として挙げられているのは、「本町まがり」「御前小路」「六道の辻」「米相場浜」「夢の浮き橋」など、それは時代がかったものばかりで、今でもなんとか通じるのは「浮世小路」や「八軒家」ぐらい。この時代で通称なのだから分からないのも致し方ないところだが、一体どんなところかと想像させられる。これには、「町名が変っても、人々に親しまれた通称はなかなかほろびさるものではない。それでまたよいのではないかと思う」と味わい深い感想が寄せられているが、残るか消えるかは別にしても、地名や町名に対する敬意や興味は失わずにいたいと思うのである。

写真は中之島周辺にある旧町名継承碑。「住居表示に関する法律」により消えてしまった町名の由来について書かれたもの。市内各地にあるので、街歩きなどの際に目にしたら、足を止めて土地の由来を学んでみよう。



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懷徳堂
プロジェクト

言うちゃろう

行かんかい!

食べり〜

◎今月の授業①

【大阪弁】

写真提供 / 岸ぶら (<http://kishibura.jp/>)

そうけ〜

2012年8月講座

「ドラマ『カーネーション』に見る大阪弁の不思議」

講師 / 金水 敏 (大阪大学大学院文学研究科教授) 林 英世 (女優・『カーネーション』方言指導担当)

大人気ドラマ『カーネーション』の方言指導役と、
当代きっての言語学者が、大阪弁について徹底解説!
ドラマの撮影現場のエピソードもたっぷり。

大人気のうちに終了した、NHKの朝の連続テレビ小説『カーネーション』。人気の理由の一つとして挙げられたのは、「食べり〜」「行こけ」といった語尾が特徴的な岸和田弁の会話だ。だが、これは岸和田だけではなく、大阪弁（関西弁）のイントネーションは地域ごとに微妙に違う。こうした音の種類の豊富さは、言語学的な見地から見れば、大阪弁全体に共通する性格なのだという。

ただし、ドラマにおける方言は、リアリティを追求すればよその地域の人には

意味が通じず、かといって言葉をいじれば地元の人には不評を買う。うまく使えば絶妙の演出になるし、その逆にもなりかねない繊細なものなのだ。

今回のナカノシマ大学では、『カーネーション』をきっかけとして、大阪弁の面白さ、そして物語の中での働きを考えてみたい。金水先生による学問的見地からの大阪弁の考察、そして女優・林英世さんが明かす演劇やドラマ制作の現場の声。異色の組み合わせによって、「大阪弁とは何か」が浮かび上がります!

ドラマの舞台となった岸和田の駅前通商店街には、「カーネーション」のギャラリーも登場。

きんすい・さとし

大阪大学大学院文学研究科教授。古典語から現代語まで、日本語を幅広く研究。特に近年はマンガやドラマなど物語の登場人物を、特定の人物像として印象づける言葉である役割語(老人の「そうなんじゃ」、マダムの「そうですわよ」など)の研究で知られている。

はやし・ひでよ

女優。劇団M.O.P出身、同志社大学時代は「第三劇場」に所属。舞台やテレビドラマに数多く出演しているほか、ひとり語りや俳優指導などの活動も精力的に行う。岸和田市出身で、ドラマ『カーネーション』では岸和田弁の方言指導を担当した。



「ドラマ『カーネーション』に見る大阪弁の不思議」

日時 / 8月8日 (水)

7:00PM〜8:30PM (開場6:30PM〜)

会場 / 追手門学院 大阪城スクエア

受講料 / 1,500円

定員 / 100名

主催 / ナカノシマ大学事務局

協力 / 大阪21世紀協会

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学8月講座①」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら!→



お問い合わせ ☎06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)



地図のバリエーションが増える江戸時代中後期。京都や江戸と比較しながら、大坂の地図の世界をさらに掘り下げます。

古地図を手がかりに大坂の歴史をたどる人気シリーズの第3回目は、江戸時代後期の地図がテーマ。徐々に近代へと近づきつつある時代にあって、地図のバリエーションもどんどん豊かになっていくという。

例えば、弘化4年(1847)に描かれた「増修 大坂指掌図」という地図からは、大坂の市街地開発と街の発展の足跡がよくわかるだけでなく、升目が描き込まれており、距離が測れるようになっている。こうした工夫は私たちが今使っている地図にも見られる機能で、本渡さん曰く、「古地図的なおらかさの中にも、近代的な合理性が見られるようになり、両者が1枚の図の中でせめぎあっているようなところが興味深い」そうだ。

講座の中では、大坂の地図だけでなく、同じ時代の京都や江戸の街を描いた歴史図もご紹介。それらとの比較も交えながら、大坂の古地図の特徴をより具体的に解説していきます。



ほんど・あきら

『大阪古地図むかし案内』『続・大阪古地図むかし案内』(共に創元社)などのシリーズでおなじみの大阪古地図のエキスパート。歴史的な事実だけでなく、作者の思いや物語を古地図から読み解こうとする語り口が新鮮。

◎今月の授業②

【古地図】

2012年8月講座

「古地図で読み解く大阪の歴史〈近世編〉②」

講師／本渡 章(作家)

こんな地図もある!

こちらは「大坂図(諸国商人町筋不迷売手引案内)」。元禄時代頃に描かれたものだが、なんと大きさは169×135cmと人が大の字に寝転べそうなワイドサイズ。市場や道筋などが詳細に記され、商業活動の便利を図ったものと思われる。街を箱庭のように見下ろす面白さがあって、見飽きない。

169cm

135cm

「古地図で読み解く大阪の歴史〈近世編〉②」

日時／8月23日(木)

7:00PM～8:30PM(開場6:30PM～)

会場／大阪市中央公会堂 小集会室

受講料／2,500円(教材費込み)

定員／100名

主催／ナカノシマ大学事務局

協力／大阪21世紀協会

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学8月講座②」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

次回は近代編。
9月下旬に開催!





センターでは、独自企画の他に貸し室利用も随時受け付けている。大阪府所蔵の美術作品の管理や活用も担っており、常設展示もいろいろ。地下にはカフェも営業中。



5月11日(金) ナカノシマ大学2012年5月講座

「江之子島へようこそ！」

◎大阪府立江之子島文化芸術創造センター

講師／高岡伸一(建築家)

中 之島の西の端から歩いてすぐ。大阪の中でも注目の高まりつつあるエリアである江之子島で、ナカノシマ大学が初開催。先月号でも特集した、江之子島や川口といった「大阪ウェストゲート」の歴史や物語が語られた。

「講座のタイトル通り、まさに『みなさん、江之子島へようこそ』という気分です」と話し始めた講師の建築家・高岡伸一さん。高岡さんは、今年4月にオープンした大阪府立江之子島文化芸術創造センターの企画・運営にも携わっている。そのため、現在センターとして使われている建築の来歴に始まり、この一帯が経てきた歴史についても詳しく調査したそう。

高岡さんは専門分野に引きつけて、江之子島・川口エリアの建築物をたどりながら、各時代の様子を紐解いていった。明治7年(1874)、大阪が西へ広がっていくことを期待されて建てられた大阪府庁舎は、大阪で2番目の西洋建築とあっ

て、「江之子島政府」と呼ばれる壮麗なものだった。また、あまり知られていないことだが、大阪市庁舎もこの建物一部を借りて市制業務を開始しており、最初の木造の仮庁舎も府庁舎のすぐ近くに建てられた。つまり、江之子島は大阪の行政の中枢が集まるシビックセンターだったのだ。

高岡さんは、江之子島から移転した後の府庁舎や市庁舎についても丁寧に解説。さらに、府庁移転後には大阪府立工業奨励館として使われることとなった建物が、



現在に到るまでにどのような変遷を経たのかも教えてくれた。それぞれの写真を見ていると、伝統的な様式美を誇った近代建築が、だんだんと機能美を優先したものへと変わり、現代建築へとつながっていく流れがよくわかり、大阪の建築史を概観するようなスケールの大きさがあった。

後 半は、アートやクリエイティブな活動の発信拠点として生まれ変わった文化芸術創造センターについての紹介。老朽化が進んでいたこの建物は、平成18年(2006)年頃から、土地ごと民間に払い下げるのか、新しく建て直すのかといった議論が起っていた。だが、大阪府政スタートの地でもあり歴史的に重要であることから、建物を残した形で開発がなされることとなった。

古い部分を巧く残すためのリノベーション工事中の写真や、開館までの準備風景、盛況に終わったオープニングパーティーの様子などが紹介され、見事に変身を遂げていく姿を目の当たりにしているうちに、自然とこのセンターへの期待が高まっていく。

これまでの施設とはまったく異なる新たな空間について、「幅広くクリエイティブな面白いことをやっていきたい」と話す高岡さん。「できるだけたくさんの方に集まってもらい、ここでみなさんと一緒に何かを作ったり、考えたり、学んだりしていきたい。話す側と聞く側といった分け方にならないような使い方ができれば」と受講生たちに呼びかけた。



左／講義前に挙手を求めた高岡さん。ナカノシマ大学生の江之子島に関する事前知識に驚いていた。

「ショック」とは、通常は衝撃とか、激しい心の動揺とかいう意味に使われるが、医学用語の「ショック」は、急激な血液循環の不全状態を指す。すなわち、血圧や体温が急に下がって、意識不明になり、命の危険が生じる状況のことである。

私は医学生るとき、「SHOCK!」というクラス内新聞を不定期に発行していた。以前、書いた「フレッシュ・メディスン」は数人の仲間間でやっていた同人誌だが、「SHOCK!」はまったくの個人発行である。

ワープロもパソコンもない時代に、特別な読者もないのに、ネタを考え、文章を書き、イラストを描いてスクリーントーンを貼り、輪転機で印刷して、同級生の冷ややかな視線に耐えながら、無償で配布していたのだから、我ながら酔狂としか言いようがない。

創刊は1978年1月で、B4の横書きの見開き2ページ。創刊号は左のページにドナルドダックと羽の生えたドクロのイラストを配し、「ついに出了！読者待望のHUMAN PAPER」との巻頭言がある。右ページ上段には「ショックングレポート」と題して「マウス大量虐殺事件」を報じている。これは、生理学の講義でハツカネズミの眼球を取り出す実習があり、その残酷な行為に対する同級生の反応を、匿名で列挙したものだ。私はその残酷さばかりが気になって、実習の内容をまったく覚えていない。

下段には「この人を推薦します」と題して、

ブラックジャック、北杜夫、ラスコーリニコフを挿絵つきで紹介している。

このコーナーは、私が共感できる人物を紹介したもので、7回連載した。ラインナップは、創刊号の3人以下、ゴッホとゴーギャン、エヴァリスト・ガロア、オーソン・ウェルズ、モハメド・アリ、ゲーテとベートーヴェン、小林繁と、ジャンルも時代もばらばらだった。

「SHOCK!」の第2号と第3号は、週刊のペースで出たが、第4号から間隔が空きはじめ、3週間、2カ月、7カ月とこ無沙汰し、1979

年9月に第10号が出て終刊した。

今、見直してみると、ヴィジュアル的には当時はやっていた『POPEYE』や『ビッキハウス』『面白半分』の影響があり、ロゴはテクノ調、イラストはアメリカンコミック調だった。第6号の全面特集、「アメリカンヒーローの思い出」では、マイティマウス、フェリックス・ザ・キャット、ウッドベッカー、ベティ・ブーなど、少年時代に見たアニメのキャラクターを絵入りで紹介した。ポパイが食べるホウレンソウの缶詰は日本では見たことがないとか、スーパーマンはクラーク・ケントから変身すると

中之島ふら青春記³⁸ 久坂部羊 クラス内個人新聞 「SHOCK!」



き、メガネを取るだけなのに、なぜ正体がばれないのかなど、素朴なコメントを載せている。

第8号では、「思い出のTV-SF」と題して、60年代の日本のテレビヒーローを特集した。メジャーの鉄腕アトム、鉄人28号から、マイナーな8823海底人、海底怪獣マリンコングのほか、まぼろし探偵、ナショナルキッド、遊星仮面などを、あちこち資料をさがしてイラストにした。速く走れるのが最大の武器であるエイトマンや、7つの威力といっても、サーチライトやマシンガンまで含まれている鉄腕アトム、ただ力が強いだけの鉄人28号などに、派手さはないが、「僕達をテレビの前に釘づけにするには十分だった」と書き、さらに「ウルトラマン以後、TV-SFは急速に超豪華趣味商品化の道をたどる」と評している。

数少ない連載企画に、「その後のおとし話」というのがあった。メタシメメタシで終わるおとし話のその後を考えたものである。

その1は「一寸法師」。法師がめでたく鬼退治をして、打ち出の小槌でふつうの身体になったところに、鬼がもどってきたらどうなるかという話で、「一寸」でなくなった「人並法師」は、鬼の体内に入ることもできず、鬼に敗北するというオチ。

その2は「みにくいアヒルの子」で、みにくいアヒルの子は美しい白鳥に成長するが、その白鳥が産んだ卵に、今度はアヒルの卵が紛れ込

んでいたというお話。そのヒナは「美しい白鳥の子」と呼ばれて育つが、ほかのヒナが立派な白鳥に成長するなか、自分は醜いアヒルになってしまい、絶望するというアンハッピーエンドである。

その3は「ウサギとカメ」。レースの途中で居眠りをしたウサギに勝利したカメは、その後ほかの動物たちの不評を買う。「居眠りをしたウサギも悪いが、それを見て見ぬふりでやりすごしたカメはスポーツマンシップに欠けている」と批判されて、再レースが行われ、当然ながらカメは負ける。

ラストは「アリとキリギリス」で、夏に遊びほうけていたキリギリスが冬に死んだあと、アリは夏に働いたからといって冬も遊んでいるわけにいかず、巣の修理や餌の保存、新しく生まれたアリへの教育などに追われ、結局、1年中遊ぶ暇がないというお話。挿絵にリアルなキリギリスを描き、学名を記したあと、キャブションに、キリギリスは「夏、仮にマジメに働いても冬には死ぬ」とある。

皮肉でハッピーエンド嫌いなところは、今の自分にも通じるようで、やはり三つ子の魂百までというところか。

似たような企画で「スリラーその現実」というのもあった。第1話の「透明人間」のみで終わったが、これは透明人間になる薬を発明したマッドサイエンティストが、自分に薬を試して身体が消えたあと、街へ出ようとしますが、途中

で薬が切れることを恐れて、パンツだけは脱げずにいるという話。

第2話はボロボロの包帯がほどけて困るミイラ男、第3話は陸上で呼吸困難に陥る半魚人を考えていたが、日の目を見なかった。

記事はクラス内の笑い話やユニークなエピソードが多いが、第9号にはビックリレポートとして、「君は黄緑おじさんを見たか?」というのがある。これは私が地下鉄で実際に見た人物で、全身黄緑づくめの中年男性だった。ベレー帽、ジャケット、タートルネック、ズボン、靴下くらいならまだいいが、ズボンのベルトから時計のベルトと文字盤、革靴、ショルダーバッグまで黄緑色で、さらには濃い色のサンガラスまで光線の具合で黄緑色に光るという徹底ぶりだった。それも全身、絵具のチューブからしぼり出したような真つ黄緑色。色黒でおかっぱ頭のむつりしたおじさんだったが、私は2度目撃しているの、あの当時、ほかにも見た人がいるかもしれない。

この個人新聞を出してしばらくしたとき、友人が「おまえのSHOCKと同じタイトルの雑誌が、医学部の図書館にあるぞ」と教えてくれた。似たような内容かと色めきたったが、それは循環不全の専門誌だった。当時の私は、シヨックという言葉に、医学用語としての意味があることを、まったく知らなかった。

くさかべよう 1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。

麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。

現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。

「地元の小学校（私の卒業校）で、4年生に『本を読む楽しみ・小説を書く喜び』というテーマで講演してきました。

うまく話せるか心配でしたが、みんな熱心に聞いてくれました。小説を書いていると、いやな人に出会っても大丈夫、

悪い登場人物にモデルにできるからと言うと、『友だちもモデルにしますか』と鋭い質問が出てたじろ

21世紀の懷徳堂プロジェクト 7月の時間割

ナカノシマ大学ほか、中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介します。

◎21世紀の懷徳堂プロジェクトとは… ナカノシマ大学が、(財)大阪21世紀協会、大阪大学、大阪市と連携しながら、大阪の街に「市民が学ぶための場所」を広げていくためのムーブメントです。



大阪カルチャークラスター!!

大阪カルチャークラスター!! (OCC!!) では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。

※大阪カルチャークラスター!! (OCC!!) では、参加店舗を募集中です。お問い合わせはsingles@do.ai (common café)まで。

2	月	9:00AM~/ 7:00PM	「中之島の水辺で水上さんぽ」奥谷 崇(水辺ガイド) 参加費:3,000円(レンタル一式+保険+協力金) ☆毎日開催☆年中楽しめるノドルボードバランス感覚が身に付き、エクササイズにもオススメ!	会場 E
7	日	2:30PM~ 4:30PM	「ワイン講座~ロゼワイン」N.Lee (ボンパール江戸堀店主:ワインコーディネーター) 受講料:3,000円 Lee氏の楽しいナビで3~4種のLeeセレクトのワインをテイスティングいただきます。	会場 G
8・11	日 水	8日 10:30AM~ 2:00PM 11日 7:00PM~ 10:00PM	「ボーボー屋・沖縄料理教室『夏は沖縄&豚肉!ラフテー&スーチキ』」中東ゆうこ(ボーボー屋) 受講料:5,000円 沖縄=豚肉!スタミナ不足の夏にラフテー(豚の角煮)&スーチキ(塩豚)を仕込みます。 3回編③	会場 M
8	日	A 1:00PM~ 2:30PM B 3:00PM~ 4:30PM	「TEA&BISCUIT◎紅茶教室」Yuriko (ティーコーディネーター) 受講料:ABとも各2,000円(マフィン付き) 日常の紅茶やおもてなしなど、自分の好きなスタイルで紅茶を楽しみたい方に。	会場 B
9	月	7:30PM~ 9:30PM	「千田稔『王権の海』を読む」江弘毅(月刊島民編集長)×山納洋(common café) 参加費:1,500円 大和王権は、海人文化の基層の上に渡来人が成立させた。この推論を神話伝承や考古資料から論証した同作に迫ります。	会場 A
12・15	木 日	12日 7:00PM~ 15日 10:00AM~	「涼しげな夏のテーブル和食でおもてなし」藤本佳子(Marble-Cooking主宰) 受講料:4,000円(材料費、テキスト込み) 「夏の簡単和食でおもてなし」レッスン。デモンストレーション後に試食。	会場 C
17	火	7:30PM~ 9:30PM	「石原正一のヨミすぎ!〜古今東西名作朗読会〜」石原正一(役者・演出家) 受講料:1,500円 小説漫画戯曲を参加者全員で声に出して読む夕べ。今月は、ラーメンズ小林賢太郎の短篇喜劇を読みます。	会場 A
19	木	7:00PM~	「聴いて読む&洋書絵本を読む」山崎一郎(翻訳家) 参加費:1,500円(お茶付き) 今回は、グリム童話を読む予定です。	会場 H
21	土	2:00PM~ 4:00PM	「工作&アート教室Coppa!! -水鉄砲を作ろう!」ムラバヤシケンジ(アーティスト) 受講料:1,500円 竹や牛乳パックなどを使って水鉄砲を制作します。完成後は近くの公園で遊ぼう!	会場 D
21	土	7:30PM~	「レユニオン島の音楽夜会 映画上映会&茶話会」 受講料:1,200円 アフリカン・ルーツの音楽の島・レユニオンのバンドがアフリカ音楽の変遷を伝える映画『クレオール音楽のいとこ』を上映。	会場 L
22	日	10:00AM~ 11:30AM	「カフェで一緒に夏の歌を歌いましょう」西影純枝(ソプラノ) 受講料:2,000円(ケーキ・コーヒー付き) ヴォイストレーニングを受けて、夏の思い出、七夕、サンタ・ルチアなどを伸びのある声で歌いましょう。	会場 J
23	月	7:00PM~ 9:00PM	「御堂筋Talkin' About vol.18『大阪のみどりを考える』」金下 玲子(環境教育コーディネーター) 参加無料 かつては海の底、近世は蔵屋敷のまち、近代は煙の都。そんな大阪都心のみどりの価値と楽しみ方、豊かさを再発見。	会場 I
24	火	1:30PM~ 3:30PM	「コミカレOSAKA昼版!夢をカタチにするドリームマップ作り☆」瀬川くみよ 受講料:2,100円 雑誌の写真を台紙に貼って、3年後の自分の姿を探ろう! 申込先: http://kokucheese.com/event/index/38757/	会場 F
28	土	1:00PM~ 3:00PM	陶芸入門「そばちょこを作ろう!」辻久恒(陶芸教室「ルームルーム」主宰) 受講料:4,000円(材料費、お茶とおやつ込み) 好きな色の釉薬でフリーカップや小鉢にも使えるそばちょこを作ります!	会場 M
29	日	1:00PM~ 3:00PM	「樹脂アクセサリ作りのワークショップ」根岸よしこ(アクセサリ作家) 参加費:1,365円(材料費込み) 小さな金属枠の中にチャームや切手など好きなパーツを入れ、透明な樹脂で封じ込めたペンダントトップをつくります。	会場 K

A common café ☎06-6371-1800

B 雑貨屋Biscuit café ☎090-9254-1223

C Marble-Cooking ☎080-1463-1792

D morrison(studio) ☎080-3113-4816

E 若松の浜 ※お問合せ:アクアスタジオ
☎06-6125-0550

F ULTRA 2nd COFFEE AND DINER

☎06-6949-8804

G フレイムハウス ☎06-6226-0107

H 貸本喫茶ちやうぶぽこ

<http://www.geocities.com.jp/chochobocko/>

I 愛日会館 ☎06-6264-4100

J カフェ アンドール 本町店

☎06-6243-0584

K タビエスタイル ☎06-4963-7450

L フェチュロ ☎06-6532-5830

M ボーボー屋 ☎06-6531-7827



レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、
京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階の「アートエリアB1」。7月のラインアップはこんな感じ。

6	金	7:00PM～ 9:00PM	中之島哲学コレージュ／哲学セミナー「誕生肯定と生命の哲学」 定員:50名程度 「誕生肯定」の概念を紹介後、どうすれば生まれてきて本当に良かったと深く心から肯定することができるのかを考えます。
11	水	7:00PM～ 9:00PM	中之島哲学コレージュ／哲学セミナー「ハッテン場摘発事件から考える」 定員:30名程度 「ハッテン場」が警察の摘発を受けた事件から、出会いやセックスなどゲイの生活について、また公然わいせつについて考えます。
12	木	7:00PM～ 9:00PM	シリーズ:科学技術イノベーション「レギュラトリサイエンス」 定員:50名程度 (独)産業技術総合研究所の岸本充生さんに、イノベーションにおける「レギュラトリサイエンス」の役割について伺います。
19	木	7:00PM～ 9:00PM	シリーズ:科学技術イノベーション「イノベーションと大学の役割—アメリカの事例から」 定員:50名程度 関西学院大学の宮田由紀夫さんに、イノベーションをめぐる「大学の役割」について伺います。
21	土	7:00PM～ 8:30PM	ダンスワークショップ「踊りにおいてよ!—第3回—」 定員:30名程度 だれでも楽しめるダンスの魅力について体験するワークを行い、気づかなかった身体の動きに関する不思議を語り合います。
27	金	7:00PM～ 9:00PM	カフェ・地域考「『さいごの色街 飛田』から考える ～取材・フィールドワーク・通学・散歩～」 定員:50名程度 遊廊の名残りをとどめる飛田から、「街」に造詣の深いゲストと都市を読み解くための視点についてお話ししたいと思います。
28	土	2:00PM～ 4:00PM	ワークショップデザイナー(WSD)・カフェ「おもてなしの心を感じる」 定員:30名程度 大阪大学ワークショップデザイナー育成プログラムの修了生を講師に招き、簡単なワークを行います。

会場／アートエリアB1 参加費／全て無料 当日先着順・入退場自由 問い合わせ／[カフェの内容について]大阪大学コミュニケーションデザイン・センター(CSCD) ☎06-6850-6632 [場所などについて]アートエリアB1 ☎06-6226-4006 ※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。



大阪大学
21世紀
懷徳堂

大阪大学21世紀懷徳堂

●Handai-Asahi 中之島塾 大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

14	土	2:30PM～ 4:00PM	「熟年夫婦の体調不良“夫源病”～こんなアタシに誰がした!」石蔵文信(大阪大学大学院医学系研究科・准教授) 受講料／1,575円 夫の定年とともに体調不良で苦しむ妻の話がよくあります。“定年後うつ”で苦しむ夫も多いようです。本講座では、熟年女性が“夫源病”に陥らないための更年期障害の本質に迫ります。
28	土	2:00PM～ 3:30PM	「ライブ・おもしろ上方落語学 初代桂文治の功績」中川桂(二松学舎大学文学部・専任講師)、林家染左(落語家) 受講料／2,100円 今秋には東京で十一代目桂文治が誕生します。元をたどれば上方の名跡である文治の初代を回顧し、その活動の様子や演じていた落語を江戸期の資料から探ります。後半は初代文治に関連する落語を上演。

会場／大阪大学中之島センター インターネット、電話、FAXか、朝日カルチャーセンターの窓口でお申し込みください。 <http://www.asahiculture.com/nakanoshima/index.html> ☎06-6222-5224 FAX.06-6222-5221 問い合わせ／朝日カルチャーセンター(中之島) ☎06-6222-5224

●大阪大学21世紀懷徳堂i-spot講座 大阪大学が大阪市と共同で淀屋橋odona2階「アイスポット」で開講する講座です。

5	木	6:30PM～ 8:00PM	「大阪らしい都市の緑化とは?—多面的機能と都市の成り立ちから考える大阪の緑」柴田祐(大阪大学大学院工学研究科・助教) ※定員・対象/一般の方30名(先着順) 「緑を増やして、まちにゆとりと潤いを」とよく言われますが、場所や落ち葉や虫の問題があったり難しいもの。緑が持つ多面的な機能と大阪の成り立ちをひもときながら、大阪らしい都市の緑について考えます。
30	月	1:30PM～ 3:00PM	「歯からさぐる進化」脇坂聡(大阪大学大学院歯学研究科・教授) ※定員・対象/小学4～6年生と保護者12組(先着順) 動物の化石には歯が含まれていることがあり、この歯から進化を探ることが出来ます。たとえば、草食動物か肉食動物かによっても歯の形は大きく異なります。そこで、実際に何種類かの動物の歯を観察しながら、進化について学んでみたいと思います。

会場／淀屋橋odona2階「アイスポット」 受講料／無料 申し込み・問い合わせ／アイスポット ☎06-4866-6803

●大阪大学×大阪ガス「アカデミックッキング」 「専門分野の講義」&「料理実習」で“学問するココロ、が実践的に身につきます。

8/28	火	6:30PM～ 9:00PM	「香草・香辛料学入門～ベトナム編」内野花(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター・特任講師) 受講料／2,000円 定員/24名 独特の香りや色で食欲を刺激するスパイスは、元々は解毒や殺菌、防腐剤としての機能が目的で使われていました。今回の講座では、大人気のベトナム料理に欠かせない香辛料やハーブを中心にレクチャーします。 課題料理＝鶏肉のフォー、魚のクレイボット煮、茹でキャベツ魚醤添え、ケムソイ
-------------	---	-------------------	---

※応募者多数の場合は抽選 会場／大阪ガスクッキングスクール千里 申込受付期間／7月1日(日)～16(月) web申込受付／7月1日(日)9:00PM～ 電話受付／7月9日(月)11:00AM～ ※7月17日(火)から順次、郵便またはメールにて当落を通知。申し込み・問い合わせ／大阪ガスクッキングスクール千里 ☎06-6871-8561 <http://www.og-cookingschool.com/>



食の流通の最前線に携わっている方から「食糧の現実」を拝聴。名調子に時折笑いも漏れたが、「お孫さんが大きくなったら農家はもういなくなりますよ」とシビアな問題提起も。



6月2日(土) ナカノシマ大学2012年6月講座

「中央卸売市場 探険ツアー」

◎大阪市中央卸売市場本場

取り扱い高全国3位、大阪の豊かな食文化や家庭の食卓を支える大阪市中心卸売市場。ふだんはなかなか見ることのできない場内を見学し、卸売市場の担う役割を学べるツアーに、定員いっぱい50名の受講生が参加した。

ふだんとは異なり、会場は甲子園球場4・5個分という広さを持っているため、集合はJR野田駅。午前8時と早朝の集合だったにもかかわらず、きっちり時間通りに集まってくださるところは、さすがに知的好奇心に溢れるナカノシマ大学生である。50人が列をなして市場へと向かう様子は、さながら大人の遠足といったところだろうか。

到着すると、まず初めにDVDを鑑賞し、卸売市場の概要についてレクチャーを受ける。大阪市中央卸売市場では、産地から農作物や水産物を大量に仕入れる卸売業者が水産部門と青果部門を合わせて4社。そこから仕入れ、スーパーや小売店へ卸す仲卸業者が約360社。これら

食のプロたちがセリなどを行い適正な価格を決定することによって、物価の安定を図っている。

続いて場内へと向かい、青果部門のセリを見学する。広大な空間に色とりどりの箱に入った商品が並び、それがセリにかけられ、そしてすぐさまトラックに積まれて出荷されていく。初めて見る市場の光景に、受講生たちは目を奪われる。そんな熱気を感じながら、セリが行われているすぐ横で卸売業者の方からレクチャーを受ける。ふだん実際にセリが行わ

れているセリ台で聞くと、臨場感も抜群だ。大阪府の食糧自給率の低さ（2%！）、約65歳という農家の平均年齢、廃棄される食糧の多さ…。深刻な問題から、食べ物の大切さが説かれた。

今回のツアーの一番のお楽しみと言えるのは、続く「仕入れ体験」。卸売市場では一般向けの小売りを行っておらず、量販店などの業者しか買えないのだが、見学ツアーの参加者はこの日だけ特別に仲卸店での仕入れ体験（買い物）ができる。フルーツに始まり、水産部門へ。鰻、マグロなどそれぞれに魚の種類が違いため、にわか仕入れ人となった受講生たちもお目当てを探そうと真剣そのもの。鯨ベーコンや辛子明太子といった加工品に昆布や鰹節なども豊富にあり、大阪の食文化をしっかりと感じる体験となった。ツアーに合わせて買いやすいように小分けにするなど、各店舗の方のやさしいご協力もあり、受講生たちの手にはどんどんビニール袋が増えていったのは言うまでもない。

仕入れ終了後は大阪市役所の担当者の方にご登壇いただき、質疑応答も行われた。「本場と東部市場との違いは？」「セリ人のかけ声は何と言っているのか？」「指でサインを作ってやりとりしているが、あれは何を意味しているのか？」など、素朴な疑問から突っ込んだ質問まで、丁寧にお答えいただいた。大阪は「食べ物なら何でも旨い」と言われるが、その理由の一つがこの市場とそこに出入りする人たちにあることを実感する機会となった。



左／レクチャー終了後は熊本県産スイカの試食も。右／マグロは切り身にして販売していただきました。

中之島フェスティバルタワーへ(2)

歴史を継承した新しい響き――

中之島フェスティバルタワーの「フェスティバル」は、いうまでもなくフェスティバルホールに由来する。「天井から音が降ってくる」と賞賛された名ホールの音響特性を引き継ぐべく、

新ホールの建設には国内外で数多くの音づくりを手がけてきた永田音響設計をはじめ、多くの専門家たちが関わっている。その中から、ホールを設計した日建設計の江副敏史氏に話を聞いた。

小学生の頃、豊中市に暮らしていた江副氏が、生まれて初めてクラシック音楽を体験したのがフェスティバルホールだった。朝比奈隆指揮による、大阪フィルハーモニー交響楽団の演奏会だったという。朝日ビルの名物レストランであるアラスカにも、何度か連れてもらったそうだ。その後クラシック音楽を愛好するようになり、建築設計の道を選んだ江副氏にとって、フェスティバルホールと大きなアールを描く朝日のビルは、特別な記憶として残っているという。

日建設計に入社してから、江副氏は



精密に造り込まれた10分の1のホール模型。舞台上から信号音を発して反響を確認する実験などが重ねられた。

都市美を 伝えて ――朝日新聞と 中之島の130年

取材文／高岡伸一

数多くの音楽ホールを設計してきた。神戸国際会館や岸和田市立浪切ホール、2005年に完成した兵庫県立芸術文化センターも担当した。オフィスにも近いフェスティバルホールの公演に通ううち、いつしかこのホールを設計してみたいという思いを抱くようになっていった。そして日建設計がコンペを勝ち取る。

「子供の頃からの想いが実った」と江副氏は語ることが、何という巡りあわせだろうか。

関西の音楽ファンにとって、このホールは特別な場所だ。設計に際しては、できるだけ旧ホールのイメージを踏襲することを心がけた。2700席の規模、壁と天井の形状、客席の赤い色など、全体の雰囲気やデザインは旧ホールを引き継いだ。その上で2層だった客席を3層に変え、天井からの反射音が客席奥まで届くようにした。客席部分のホールの幅を縮めて見やすさと聴きやすさをさらに高めた。

優れた音楽ホールとして知られたフェスティバルホールだが、課題がなか

ったわけではない。オペラやバレエ公演など近年大型化するセットにも対応できるよう舞台を広げ、逆に間口は催し物のタイプに合わせて可変で縮められるようにした。何よりこだわったのが、「静けさ」だ。ビルの前の道路には後から地下鉄四つ橋線が建設され、実は旧ホールには地下鉄の振動がわずかではあるが伝わっていたのだ。そこで新ホールでは床・壁・天井を全て2重とした浮き構造を採用し、間に防振ゴムを挟んで外部の振動をシャットアウトした。これほど大規模なホールの浮き構造は珍しいという。豊かな音の響きに加えて、完璧な静寂をも実現したホールなのだ。

現在ホール内部の工事は最後の段階を迎えている。最終的にはオーケストラを入れて、音響をチェックしていくという。



提供／株式会社朝日ビルディング
<http://www.festivaltower.jp/>

中之島フェスティバルタワー



中

之島の大学と言えば、「やつぱり阪大」というイメージは根強い。キャンパスは移転してしまったものの、大阪大学中之島センターの存在や大阪市立科学館そばにある理学部跡のモニュメントなど、そのルーツを示すものは多いからだ。本誌の人気連載「中之島ふらふら青春記」で久坂部羊さんが綴るのも、もちろん中之島にあった頃の阪大医学部での物語だ。

中之島時代をはじめ、大阪大学の歴史を分かりやすく学べる場所が、現在医学部のある吹田キャンパスにある。同窓生たちの交流の場として建てられた銀杏会館の1階「医学史料展示室」である。平成7年（1995）、銀杏会館の竣工と共にオープン。町人たちが開いた学問所である懷徳堂の精神などを受け継ぎつつ、明治2年（1869）に大阪府医学学校として開校して以来、大阪大学がどのように発展を遂げてきたのか、パネルや写真、当時使われていた器具などによってたどることができる。

「せっかく作るなら面白いものにして、ようとうことになったんです」とは、史料の収集と整理に関わる薬学博士の米田該典さん。大学の医学部が所蔵史



佐多愛彦の胸像（左下）のほか、時の首相・若槻礼次郎が書いた「大阪帝国大学」の扁額など貴重なものも。史料室では卒業アルバムや写真など、資料の寄贈も受け付けているそう。

大阪大学医学部 医学史料展示室

吹田市にある大阪大学キャンパス内の銀杏会館1階。利用などに関する問い合わせは☎06-6879-3500 9:30AM~4:30PM 土・日・祝休

中之島時代の阪大を知る史料室があつた。

しい校舎を建てて中之島に留まることとなった。

だが、戦後に入り昭和25年（1950）のジェーン台風で医学部の地下室が浸水、続いて昭和34年（1959）の室戸台風では理学部の機械類が水没するなど相次ぐ災害に見舞われた。結局これが豊中および吹田へのキャンパスの移転へとつながるのだが、予期せぬ事態に備えるためにも、大学の歴史を伝える史料や記録類の保存を求める気運が学内で高まり、少しずつ収集が行われるようになる。史料の収集にあたっ

ては、大阪府の史料館の協力を仰いだり、卒業生やかたて勤めていた教師たちにも呼びかけて寄贈を募ったそうだ。こうした経緯を経て、吹田キャンパスへの移転に際して、銀杏会館に史料室が造られることとなった。米田さんは阪大と中之島との結びつきを強調する。「阪大にとって中之島は確たる場所として意識されてきた。特に医学部にとつて中之島は心のふるさと。歴史を見てもらう必要があると思っ

ています。場所を移した後も、「中之島を忘れるな」という想いは強いようだ。今も阪大の学園祭の名は「中之島祭」と呼ばれている。

料を展示する例は他にもないわけではないが、ほとんどの場合は骨格模型や解剖標本など医学に関する専門的なものだけが並ぶ。一方、こちらの展示は史料と共に当時の新聞記事なども絡めて時代ごとに編集されており、一般人が見ても興味深い展示品も多く、規模も大きいそうだ。

充

実した内容になった背景には阪大が経てきた歴史がある。大正

6年（1917）、当時の大阪府立高等医学学校と病院は火事に見舞われ、それまで持っていた史料の多くを失った。これを機に「郊外へキャンパスを移しては」「街なかに病院組織があるのはいかがなものか」といった声上がり、移転論争が巻き起こった。しかし時の校長であった佐多愛彦は、学校が誕生した場所である中之島にあることの意義を強調、周囲を説得し、不燃性の新

大坂が呼び寄せた奇人。

明治の末までは中之島の上にもう一つ「島」があった。「堂島」である。堂島川の北にもう一本、曾根崎川（通称「蜆川」）が半ループ状に流れ、島を形成していた。家紋の「二蓋笠」に似ている。

曾根崎川の始まりは、今は痕跡すらないが大江橋の東約数十メートルの所。最盛期には十もの橋がかかっており、最初の橋を「難波小橋」と呼んだ。堂島川の北河岸に架かっていたと考えて良い。江戸時代末期、その難波小橋辺りに、茶人にして奇人と誰しもが認めた老人・松枝不入が住んでいた。

生まれは美濃国だが、親と折り合い悪く江戸へ出た。すると古道具屋の石地蔵にゾッコンとなり、所持金はないで購入するや、その場で荒縄で背中に石地蔵を縛り、赤子をおんぶするようにな出で立ちで往来を歩いた。

ところへ大名行列。江戸っ子は「こりゃ打ち首だな」。案の定、御駕籠内から「待て」。出てきたのが先の松江の殿様・松平不昧侯。一言「気に入った」。不昧侯は若くして財政破綻寸前だった松江を改革により立て直した切



曾根崎川は現在の北新地のちょうど真ん中あたりを横断するように流れていた。北新地本通から国道2号線へ抜ける道沿いには、曾根崎川や、かかっていた蜆橋についての石碑がある。地図による解説もあってとてもわかりやすい。



れ者。隠居後は大名茶人として名を馳せたお方。なりふり構わず気に入った石地蔵を、我が子の如く背負って歩く姿に感じ入ったのである。付き合いが始まった。

「我が故郷・松江に來ぬか」

「イヤです」

「その言い方も気に入った。これからは『松枝不入』と名乗るが良からう」
：松江に入らぬ男というシャレである。その不入が晩年、終の棲家として選んだのが大坂の難波小橋辺りであったのだ。

「どうして大坂かと？ …ハハハッ、

それはの、大坂はこんな変わった奴でも受け入れる風土があるからじゃ。縛りがない。異風も良しと認めてくれる大らかさがあるからじゃ」

「大らかさ」…今の大阪に欠落した感覚だ。不入がいいたなら、「浪花不入」と名乗っていたらどう。

きよくとろ・なんかい

1964年、兵庫県加古川市生まれ。大阪大学卒業前（1989年）に三代目旭堂南海に弟子入り。1998年大阪市より「咲くやこの花賞」授賞。得意ネタに「太閤記」「難波戦記」「浪花俠伝」「天満屋敷談記」など。

トウミン月報

2012年7月1日発行

中之島バンクスで開催される「トワイライトオペラ」は、目の前に流れる川と夕焼けを眺めながらオペラを聴ける、夏の夕暮れにぴったりのコンサート。日本だけでなく、イタリアのミラノをはじめ各地のコンサートにも出演しているソプラノ歌手の森永一衣さんが、ピアノの篠崎愛恵さんと共に、「サンタ・ルチア」

「アヴェ・マリア」「オペラ蝶々夫人」より、ある晴れた日になど、オペラの代表的な曲を披露する。

本格的なオペラを生で聴ける貴重な機会であるだけでなく、森永さんが語るイタリアの人たちのさまざまな人間模様のエピソードも楽しみなところ。また会場となるのは中之

川と夕陽を眺めながら、オペラの旋律を楽しむ。



「森永一衣 トワイライトオペラ」

日時／7月16日(月・祝) 7:00PM～8:00PM(開場6:00PM～)

会場／中之島バンクス de sign de > café

出演／森永一衣(ソプラノ) 篠崎愛恵(ピアノ)

料金／S席¥3,500(店内36席) A席¥2,500(店内12席)

C席¥1,000(丸太イス20席)

当日券A席2,500円(テラス18席・晴天時のみ) ※飲食代は別途。

問い合わせ／de sign de > café ☎06-6443-3375



島バンクス内のカフェなので、屋外の丸太イス席であれば1,000円で聴けるというのも嬉しい。劇場とはまた違う肩のこらない気軽な雰囲気のため、「オペラは初めて」という人でもリラックスして楽しむことができそうだ。(大迫力・本誌)

川の上で、川べりで、天神祭の醍醐味を味わおう！

島民にとって7月の風物詩

といえば、三大祭のひとつである天神祭。船渡御で水辺にぎわう水都大阪ならではの祭りのために、大阪水上バスでは2日間わたって3つのコースが用意されている。

まず7月24日の宵宮の夜には「天神祭 宵宮クルーズ」、そして本宮にあたる翌25日の

昼には「天神祭 ランチクルーズ」が運航される。どちらにも上方講談師の旭堂南麟さんが語る天神祭にまつわる講談を聴きながら、帝国ホテルのデイナーとランチを堪能することができ、学べてかつ美味しいクルーズだ。

その25日の夜には、打ち上



天神祭 特別桟敷席

日時／7月25日(水) 5:30PM～(要予約)

場所／OAP港下流

料金／25,000円(特製弁当・ドリンク付き)

予約・問い合わせ／大阪水上バス予約センター

☎0570-057771



げられる奉納花火を真正面にえられる、大阪アメニティパーク前に設けられた臨場感あふれる「天神祭 特別桟敷席」も開設される。船渡御や奉納花火が目の前で繰り広げられる様子を観覧でき、この目のために用意された特製弁当も味わえる。数量限定とあっては、まさに特別席だ。いつもとは異なった角度から、天神祭の新しい楽しみ方を見つけよう。(江口由夏・本誌)



天神祭 宵宮クルーズ

日時／7月24日(火) 5:50PM～8:10PM(要予約)

乗り場／OAP港 料金／大人14,000円・小学生11,000円(帝国ホテル特製ディナー・フリードリンク・おみやげ付き)

天神祭 ランチクルーズ

日時／7月25日(水) 12:00PM～1:20PM(要予約)

乗り場／OAP港 料金／大人6,000円・小学生4,500円(帝国ホテル特製ランチ・ドリンク付き)

※どちらも予約・問い合わせは

ひまわり予約センター☎0570-075551

※いずれも天神祭の船渡御に参加するものではありません。



2009年から始まった「平成OSAKA天の川伝説」が、今年も七夕の夜に開催される。これは水都大阪中之島エリアの「川」のある風景を活かすべく考え出されたイベントで、天満の八軒家浜一帯から大川へ、およそ5万個ものLED



電球「いのり星」を流し、願いを記した短冊とともに天に祈りを届ける夕べにしようというもの。

七夕の夜は天の川になる



いのり星の放流
権は1口10000
円で購入すること
ができ、当日は自
分の手で川に放流
することが可能。
また、購入時にも
らえる特別な短冊
に願い事を書いて

特設受付に投函すれば、イベント当日に会場の笹に飾り付けてもらえる。いのり星放流権は、八軒家浜川の駅などの特設受付や当日会場で購入できる。
数えきれない光る球が水面に浮かぶさまは、さながら天の川のようなロマンチックな光景。光源は天神橋を超えたふれあいの岸辺あたりまで到達すること。当日は天と川面の2つの天の川を眺めな

京阪シテイモールの天神祭限定メニュー！

普段とひと味違う天神祭の味わい方をと、京阪シテイモールの飲食店では7月25日の本宮当日だけの限定メニューが登場する。各店舗が工夫をこらした限定料理がいたただけるだけでなく、本宮に打ち上がる奉納火花をシテイモール屋上から鑑賞できるチケットも一緒に付いているのが嬉しい。例年と同じく、大変な人出が予想される天神祭を屋上でゆったり過ごせるとは、な

んとも優雅だ。このスペシャルビューチケットを利用して、夜空に打ち上がる火花と一緒に、煌々と輝く船渡御の様子を楽しもう。
参加予定の店もバラエティ豊か。鹿児島産の黒毛和牛を始め、九州食材にこだわった「薩摩ごもん」、鮑やフカヒシを使った高級中華料理店



中華菜館 水蓮月

薩摩ごもん

京阪シテイモール 天神祭限定メニュー

開催日/7月25日(水) 参加店舗/土山人、ビンドウ、シュハリ、テンマ、薩摩ごもん、風の街、ルージュ、大起水産、回転寿司、中華菜館、水蓮月、OLI、ザ、オリエンタル、ヴィレッジ、ピアガーデン

予約受付期間/7月1日(日)10:00AM~

予約方法/電話もしくは店頭にて受付(売り切れ次第終了) ※料金(チケット代込み)は店舗によって異なります。詳しくは<http://www.citymall.jp/> ※値段やサービス内容は一部変更となる場合がございます。

「中華菜館 水蓮月(ロータスムーン)」ほか、イタリアンや寿司など、幅広い層に広えてくれるラインアップだ。一夜限りのメニューのため、あれ

これ迷ってしまつのも楽しいが、各店舗に用意されている席は限られているのでご予約はお早めに。(江口由夏・本誌)

平成OSAKA天の川伝説

日時/7月7日(土)7:00PM~9:00PM

放流場所/八軒家浜~ふれあいの岸辺付近

料金/観覧無料(八軒家浜周辺の「いのり星」放流・観覧エリアは放流権購入者のみ入場可能)

参加費/1,000円(短冊ハガキ、「いのり星」の放流権、当日の記念品付き) ※OBPエリアの開催予定は以下

日時/8月7日(火)7:00PM~9:00PM

放流場所/大阪城新橋~新鳴野橋

問い合わせ/平成OSAKA天の川運営委員会事務局

☎06-6942-2006 <http://inoriboshi.jp/>

がら、「いのり星」と短冊に願いを託そう。なお、今年はエリア拡大の社会実験として、8月7日の黄昏時にOBPエリアでも開催予定だ。(江口由夏・本誌)

細胞への分化が可能な細胞の一つとされ、再生医療や新薬開発への応用が期待されている。山中氏はその研究において世界をリードする存在メディアでも多く取り上げられており、次期ノーベル賞候補との呼び声も多く聞かれる。その山中教授の口から、「iPS細胞研究の進展について」が語られるとのこと。ふだんの講演であれば会員だけしか

iPS細胞とは、さまざま

大正元年(1912)に創立した関西で最も歴史ある会員制紳士倶楽部として知られる大阪倶楽部は、今年11月、めでたく100周年を迎える。その記念事業の一環として、9月にはiPS細胞の世界的な権威として知られる京都大学iPS細胞研究所の山中伸弥氏を迎えて特別講演会が行われる。



京都大学iPS細胞研究所 山中伸弥氏

大阪倶楽部の100周年記念講演にiPS細胞研究の第一人者が

大阪倶楽部創立100周年記念特別講演会「iPS細胞研究の進展」

日時/9月12日(水)1:00PM~2:00PM

会場/大阪倶楽部 4階ホール

定員/100名(応募者多数の場合抽選)

申し込み方法/下記の宛先まで、住所・氏名・参加人数(2人まで)・電話番号を記入の上、往復ハガキで申し込み。

〒541-0042 大阪市中央区今橋4-4-11

大阪倶楽部 100周年記念特別講演会係

※7月31日(火)の消印有効。抽選結果は8月中旬に案内。



参加できないが、100周年記念事業として一般の人でも申し込むことができる。しかもありがたいことに無料！記念事業はこの他にも企画されているそうで、これを機会に文化や経済など大阪の発展を担ってきた紳士倶楽部の存在についても考えてみたい。(大迫力・本誌)

橋とのふれあい。

電車で都会に入る。

旅や出張で大都会に着くとき、独特の緊張感を感ずることはないだろうか。僕は三重県の小さな町で育ったので、単に田舎モンがビビっているというだけかもしれないけれど、高層ビルなどが並ぶ景色の中へ入っていくのは、どちらかと言うと「対峙する」という感覚に近い。



大阪に暮らして15年近くなるのに、近鉄特急が（三重人なので）近畿道をくぐるあたりから背筋が伸びるし、サラリーマン時代から数え切れないほど出向している東京も、新幹線の手窓から品川あたりの景色を見ると、がんばらなきゃという気分にはさせられる。

この「都会に入るときに緊張する」現象。単に自分が田舎モンだというだけではなくて、街への「入り方」が影響している、と近頃推察している。

船のスピード。

ただ、例えばこういう入り方の時は、不思議と肩に力が入らない。フェリーで瀬戸内を進み、明石海峡以降、徐々に神戸や大阪の街並みが眺めら

れる時。あるいは小舟で中之島の西端から街を見上げた時。東京で隅田川をさかのぼった時もそうだった。「いらっしやうい」という声が街並みから聞こえてきそうな、迎え入れられる気分なのだ。それはきつと、スピードの違いなのだと思う。鉄道やバスのスピードだと、ふと油断した際に都会の街並みに取り囲まれていて「トカイニヤッテキタゾ」という気持ちが続いてつかない。もう飛行機なんかだとワープ航法を使ったようで、小さな窓からみる景色にはもはや現実味すらない。例えば当方のクルーズは平均時速10〜15キロ。ジョギングや自転車が進むスピードに近い。やはり人力のおよぶ範囲というのが一番安心するのだろうか。

橋をくぐる時。

中之島かいわいで言うと、低い橋をくぐるというのも親しみを感じさせる要素だ。普段は橋の上を渡るばかりで通過していたものが、触れそうなるぐらいの至近距離で目の前に現れる。「ギリギリだ」という緊張感はあっても、それは戯れているような感覚に近い。景色の行き過ぎる速度、大きな距離、その諸々が人間的なサイズとかけ離れていないことが、少なくとも僕のは好みには合う。



最大1・8メートル！

もちろん船長という立場からいうと、低い橋をくぐるのは緊張を強いられる場面のひとつだ。単にストレス、というだけではない。

問題は水位が変動することだ。

お気づきでない方も多いが、大阪都心部の河川は潮の満ち引きの影響を受けている。大潮の日には6〜7時間で最大1・8mほど水位が上下する。しかもその水位は、上流の雨の影響、気圧や風、果ては大阪湾に入り込んだ暖流の影響まで受けて変動する。気象庁の発表している潮位表を参考に運航しているわけだが、右のような理由により、予報通りの水位になることのほうが少ない。

中之島の迷宮。

例えば東側から中之島を一周しようとする時、当船の場合、特に問題になるのは淀屋橋と大江橋、そして堂島大橋。水位が上昇中だったりと、途中それらの橋に通せんぼされ、最悪の場合、数時間は元の場所へ帰れなくなる。中之島の迷宮に閉じ込められる。こういうのをトリックに利用したサスペンスとか書けそうな気がしてきた。

：潮位がどうのこのの、あまりこまごま書いていると疲れてしまう。とにかく、陸上と違って、川の上は都会の中と言えども自然の営みに左右されるところが多い。そんな川と付きあうためには様々な経験と情報が必要だということだ。

でもそれ以上に肝心なのは「水位が高いじゃないか！」とビビビリするのではなく、「ふむ、そういうコトもあるわな」と、まず受け止められる大らかさだと思っている。

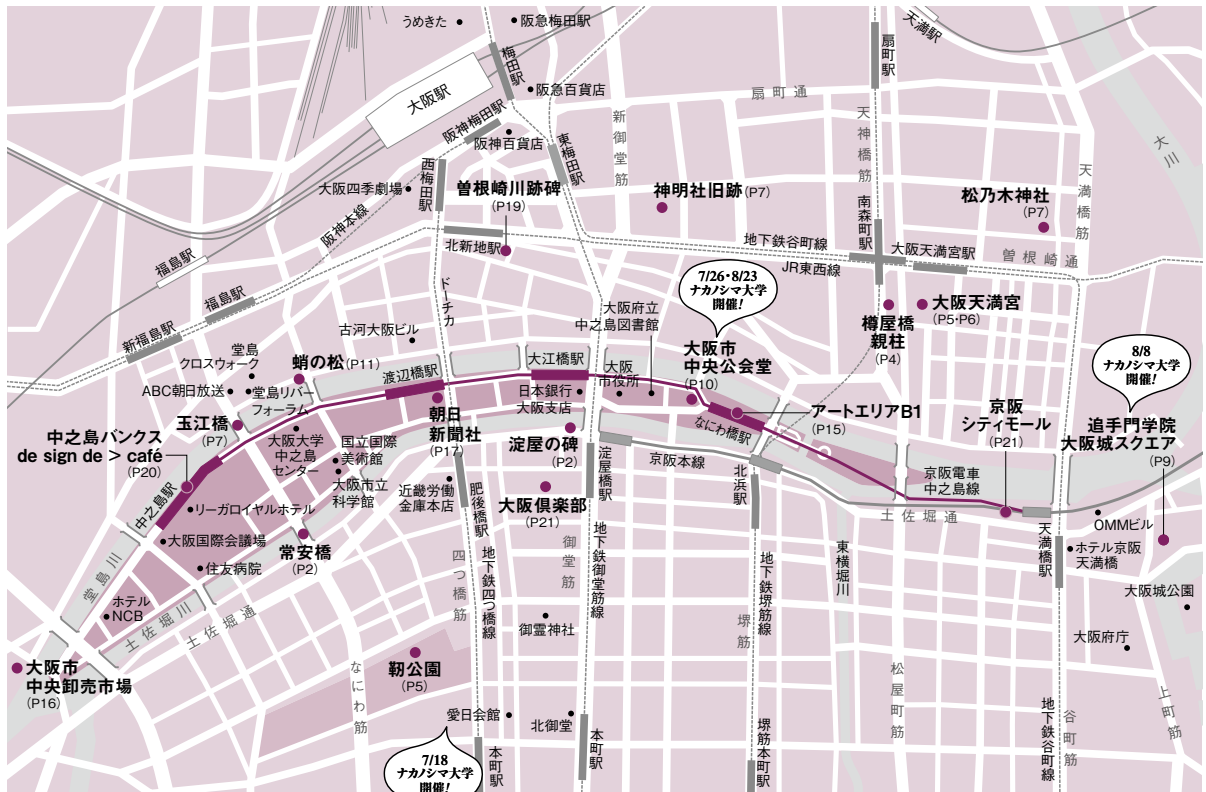


中野弘巳

なかのひろみ

中之島をはじめ、大阪の水辺をクルーズする小さな遊覧船「御舟かもめ」船長
<http://www.otune-camome.net/>

大「島民」MAP 橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です!



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅/京阪シティモール/京阪モール/デリスタ天満橋店/ホテル京阪天満橋/ホテル京阪京橋
- 大阪市北区・中央区・福島区 [書店] 旭屋書店 梅田地下街店/旭屋書店 堂島地下街店/カベラ書店/紀伊国屋書店 本町店/ジュンク堂書店 大阪本店/ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店/ジュンク堂書店 天満橋店/MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店/スタンダードブックストア/天牛堂書店 大江橋店/ブックファースト 梅田店/ブックファースト 淀屋橋店/文芸堂書店 淀屋橋店/隆祥館書店 [公共施設・大学関連施設など] アイスボット/朝日カルチャーセンター/味の素 食のライブラリー/ABC朝日放送/大阪企業家ミュージアム/大阪国際会議場/大阪市中央公会堂/大阪市立中央図書館/大阪市役所市民情報プラザ/大阪城天守閣/大阪商工会議所/大阪大学中之島センター/大阪21世紀協会/大阪府立中之島図書館/大阪フィルハーモニー会館/大阪ボランティア協会/大阪歴史博物館/追手門学院 大阪城スクエア/関西学院大学 大阪梅田キャンパス/慶應大阪リバーサイドキャンパス/国立国際美術館/CITY NAIL'Sインターナショナルスクール/芝川ビル/市立住まい情報センター/中央電気倶楽部/ホテルNCB/メビック扇町
- 店舗・医院など アリアスカーマールトレ/アンドール 本町本店/上町貸自転車/Ultra 2nd/江戸前鰻料理 志津可/MJB珈琲店/大西洋服店/OOO(オー)/カセツ/喫茶カンテロ/喫茶SAWA/グランスイート中之島/黒門さかえ/コモンカフェ/サトウ花店 中之島本店/ザ・メロディ/じろう亭/Girond's JR/心斎橋山田兄弟歯科/住友病院/セブンイレブン大阪証券取引所店/タビエスタイル/ティーハウスムジカ/たまがや鍼灸整骨院/東郷歯科医院/NAKAGAWA1948 淀屋橋店/ナンジャニ/バスターレー/花かつ/BAR THE TIME 天神/平岡珈琲店/ビルマニアカフェ/フレムハウス/ミニシロー/宮崎歯科/やきとりばかや/吉田理容所/ラクカーニャ/LES LESTON
- 大阪市内その他 [書店] 伊勢屋書店/大阪書店/紀伊国屋書店 京橋店/なんばミヤタ/福島書店/柳々堂/ループル書店 [公共施設・大学関連施設など] 大阪市社会福祉研修・情報センター/大阪市立図書館 [店舗・医院など] あじさい/アートアンドクラフト/欧風食堂 ミリパール/大阪市信用金庫 江戶堀支店/御船かもめ/Calo Bookshop and cafe/写真とプリント社/鳥かごキッチン/ネイルサロン スワナ/パルビコ/ホステル64オオサカ/MANGUEIRA/Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店/学運堂 フレスト店/Books 呼文堂/水嶋書房 千早はるもと/水嶋書房 千早はるもと/大阪狭山市立図書館/大阪大学企画広報・学芸連携事務局/大阪大学 21世紀懐徳堂/大阪大学本部/寝屋川市役所/摂南大学 地域連携センター/郵政考古学会/ゆったりんこ
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 新宿店/ジュンク堂書店 西宮店/水嶋書房 丹波橋店/伊丹市文化振興財団/大手通りストリートギャラリー 街・発信/納屋工房/ターバーシンブロン/百練/奈良県立図書館情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告「社史」を編む。

企業の歩みを伝える「社史」には、会社と共に街の歴史も詰まっている。じっくり見てみれば意外に面白い、奥深い社史ワールドを探検してみる。

●『月刊島民』vol.49は2012年8月1日発行です!

編集・発行人/江 弘毅(編集集団140B)

編集・発行/月刊島民プレス

若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)

松本 創 大迫 力(編集集団140B)

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階

Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341

制作進行/堀西 賢(ALEGRESOL)

デザイン/山崎慎太郎

表紙イラスト/奈路道程

印刷/佐川印刷株式会社